

柳 東弦 (リュウ ドンヒョン)

韓国出身

筑波大学 人間総合科学研究科体育学専攻 博士課程

研究について

【現地調査】

日韓剣道史を研究している私は、必要な史資料を収集・検討するために、5月18日(火)・21日(金)の2日間をかけて講道館柔道資料館・図書館に現地調査を行った。日韓剣道史の研究をしているのに、なぜここに行ったのかというと、日本植民地下朝鮮で剣道を普及した人物は日本に留学し、剣道のみならず柔道も普及した記録があり、両方確認する必要があったからだ。

講道館柔道資料館・図書館は、1984年に講道館創立100周年記念事業として建設された講道館国際柔道センターの2階にあり、3つの展示室(資料展示室・殿堂・師範室)に分かれている資料館である。

講道館柔道資料館・図書館の現地調査を行う前に、時間を効率的に使用するために講道館のホームページに公開されている講道館柔道資料館・図書館の所蔵目録(PDF)を確認し、その中で私の研究に必要となる書籍名をチェックした上で現地調査を行った。

1日目、つくばから出発した1時間半後の13時位に講道館に到着した。しかし、講道館柔道資料館・図書館は、新型コロナウイルスの影響で、開館時間が10時～17時までだったのが16時までに短縮されている状況であった。



▲嘉納治五郎先生と一緒に

講道館柔道資料館・図書館の所蔵目録(PDF)の中で私がチェックしておいた書籍を確認するため、同館の係員に閲覧申請を依頼した。この施設に設けられている閲覧室で、各種書籍を検討した結果、私が思ったより非常に重要な内容を確認できるようになったため、楽しみながら様々な書籍を読み進めた。各種書籍を検討している中、閉館の時間がきたので、やむを得ず途中で書籍を閉じた。

1日目に講道館柔道資料館・図書館の閉館時間を探し、2日目には、より早く11時15分に同館に着き、前回検討できなかった書籍から読み進めた。

各種書籍を確認する中、お腹が空いてきたため、コンビニを探しに歩き回っているところ、途中で韓国料理屋を発見した。韓国料理屋のメニューを見たが、私が好きな飲食のスンドゥブチゲがあったので店に入ってすぐ注文をした。

スンドゥブチゲを食べ切り、気分よく資料館
に戻り、閉館の時間まで各種書籍を検討した。



▲スンドゥブチゲ

以上